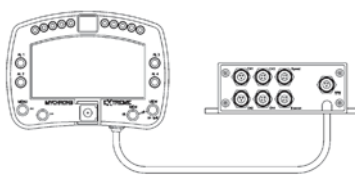
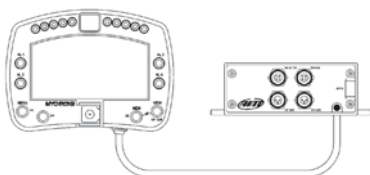




MYCLIPON3

Plus / Gold / eXtreme



ユーザーズガイド

目次

クイックスタート	1
MYCHRON3 Plus/Gold/eXtreme の構成	1
使用のための準備	1
電源	1
初期設定	2
取り付け	3
ディスプレイ	3
本体(ジャンクションボックス)	3
ラップセンサ	4
1. 赤外線式の場合	4
2. 磁気式の場合	4
回転数センサ	4
速度センサ	5
1. カート用の場合	5
2. バイク用の場合	5
温度センサ	5
各センサと MYCHRON3 を接続する	6
ラップマーカー(赤外線式ラップセンサの場合)	6
使用方法のアウトライン	6
データを記録する	6
データを呼び出す	7
データの消去	7
リファレンス	8
MYCHRON3 Plus/Gold/eXtreme 各部品の詳細	8
ディスプレイ	8
ボタン	8
警告ランプおよびギアポジション	9
本体(ジャンクションボックス)	9
エンジン回転数センサ	10
速度センサ	10
- カート用速度センサ(フロントタイヤ用)	10
- バイク用速度センサ(カートリアシャフト用)	10
温度センサ	11
- 液温センサの取り付け	11
- 排気温度センサの取り付け	11
- シリンダヘッド温度センサの取り付け	12
その他のアナログセンサ(eXtreme のみ)	12
ラップセンサ	12
ラップマーカー	13
MYCHRON3 Plus/Gold/eXtreme のメモリについて	13
ラップタイムメモリ	13

ログデータメモリ	13
メモリ管理	14
MYCHRON3 Plus/Gold/eXtreme の設定方法	14
設定メニューの詳細	14
-Night Vision (バックライト - 購入時オプション)	14
-Clear test data(テストデータクリア)	15
-Beacon obscuring time (マーカー信号無視時間)	15
-Split's number (スプリットタイム測定用マーカーの数)	15
-Total running (累積走行時間および距離)	16
-Odometer (オドメーター)	16
-Gear calibration(ギアセンサキャリブレーション)	16
-Maximum temperature alarm 1(最高温度警告 1)	18
-Minimum temperature alarm 1(最低温度警告 1)	18
-Maximum temperature alarm 2(最高温度警告 2)	18
-Minimum temperature alarm 2(最低温度警告 2)	19
-Changing gear lights configuration(回転警告ランプ設定)	19
-Wheel circumference(タイヤ外周長)	19
-Speed sensor's number(速度センサマグネット数)	20
-Max RPM value (最大回転数)	20
-Spark for Revs (一回転あたりの点火パルス数)	20
-Temperature measure unit (温度表示単位)	20
-Speed measure unit (速度計測単位)	21
-Message language (表示言語)	21
-Firmware Information (ファームウェアバージョン)	21
使用方法の詳細	21
走行中の表示	22
ベストラップタイムを表示する	22
ほかのラップのデータを読み出す	23
特定のラップの詳細なデータを読み出す	23
- オートリプレイ	23
- マニュアルリプレイ	23
記録されているデータを消去する	23
パーソナルコンピュータでデータを解析する	23
メンテナンス	24
電池の交換	24
ファームウェアのアップグレード	24
クイックリファレンス	25

本書について

- ・ 本書の内容の一部または全部を無断で転載することは固くお断りします。
- ・ 本書の内容に関して、将来予告無しに変更することがあります。
- ・ 本書の内容については、万全を期して作成いたしました。が、誤植や制作上の誤記がないことを保証するものではありません。
- ・ 本書の内容に関して、Aim s.r.l. および有限会社ベアでは一切の責任を負いかねますので、ご了承ください。

本書の著作権について

- ・ すべての権利は、Aim s.r.l. および有限会社ベアに属しています。無断で複製、転記、翻訳等を行うことは、一切お断りいたします。

© 2004 BEAR inc.

はじめに

この度はMYCHRON3をお買いあげいただき、有り難うございます。本マニュアルは「クイックスタート」と「リファレンス」の二部構成となっています。初めてMYCHRON3をお使いになる方は、まず「クイックスタート」をお読みください。

さらに詳細な情報については「リファレンス」をご覧ください。

クイックスタート

MYCHRON3-Plus/Gold/eXtreme-の構成

お買いあげいただいた MYCHRON3 Plus/Gold/eXtreme には以下のパーツが含まれています。不足部品がある場合は、販売店にご相談ください。

1. MYCHRON3 Plus/Gold/eXtreme ディスプレイ + 本体
2. RPM センサ
3. ラップセンサ(赤外線式・磁気式のいずれか)
4. ラップマーカー(マーカー付きセットの場合のみ)
5. ラップマーカー用外部電源ケーブル(マーカー付きセットの場合のみ)
6. 液温(M5)・液温(M10)・排気温・シリンダヘッド温度のいずれか
7. スピードセンサ(カート用・バイク用のいずれか)
8. USB ダウンロードケーブル(Plus はオプション)



使用のための準備



下記の準備手順は MYCHRON3 を取り付けた後でも行えます。

電源

MYCHRON 3 本体(ディスプレイではありません)上面の4本のねじを緩めてカバーを取り外します。内部に電池ケースがありますので、ケース内に記載されている図のとおり単4アルカリ乾電池6本を取り付けた後、カバーを取り付けます。

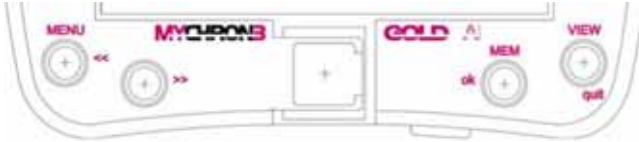
ディスプレイ下部右端の[VIEW / ON]ボタンを押すと電源が入ります。電源切断は右の2つのボタン([MEM]と[VIEW])を同時に押します。





初期設定

初期設定を行います。USBダウンロードケーブルとPCを使用すれば、PCで設定を行い、そのデータを MYCHRON3 に転送することもできます。この場合下記の操作は必要ありません。PCでの設定方法については RaceStudio2 のマニュアルを参照してください。



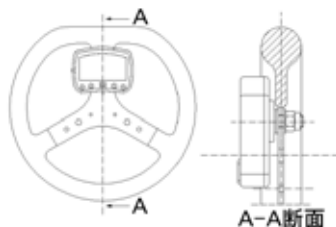
1. 左端の[MENU]ボタンを何回か押し、画面に **NUMBER OF SPLITS** と表示させます。複数の磁石(マーカー)が埋設されているコースなどでは、ここの数字を入力することでスプリットタイム(最初のマーカーからの累積タイム)を計測することができます。スプリットタイム用の磁石(マーカー)の数を入力します。つまり、コース全体の磁石(マーカー)の合計数マイナス1です(例えば埋設磁石が1本であれば0となります)。
2. 値を変更するには、[MEM]ボタンを押して編集モードに入ります。この状態で[MENU]ボタンを押すと、値が一つずつ増加します。最大値は5で、もう一度押すと0に戻ります。[MEM]ボタンを押せば修正が保存され、[VIEW]ボタンでキャンセルされます。
3. [MENU]ボタンを何回か押し、画面に **MAX RPM VALUE** と表示させます。ここで、バーグラフ式タコメータの最大値を設定します。なお、ここで設定した数値よりも大きい入力があった場合には、ノイズとみなされデータは記録されません。
4. 値を変更するには、[MEM]ボタンを押して編集モードに入ります。この状態で[MENU/<<]か[>>]のボタンを押すと値を変更することができます。[MEM]ボタンを押せば修正が保存され、[VIEW]ボタンでキャンセルされます。
5. [MENU]ボタンを何回か押し、画面に **Fahrenheit / Celsius** と表示させます。ここで、温度の単位(華氏か摂氏か)を設定します。
6. 値を変更するには、[MEM]ボタンを押して編集モードに入ります。この状態で[MENU/<<]か[>>]のボタンを押すと値を変更することができます。[MEM]ボタンを押せば修正が保存され、[VIEW]ボタンでキャンセルされま
7. [MENU]ボタンを何回か押し、画面に **SPEED UNIT** と表示させます。ここで、速度の単位(km/h か MPH か)を設定します。

8. 値を変更するには、[MEM]ボタンを押して編集モードに入ります。この状態で[MENU/ <<]か[>>]のボタンを押すと値を変更することができます。[MEM]ボタンを押せば修正が保存され、[VIEW]ボタンでキャンセルされます。
9. [>>]ボタンを何回か押し、画面にWHEEL CIRCUMPERENと表示させます。ここで、スピードセンサを取り付けるタイヤの外周長を入力します。なお、入力する値は7で設定した速度の単位によって異なります。km/h単位の場合はmmで、MPH単位の場合はインチで入力します。
10. 値を変更するには、[MEM]ボタンを押して編集モードに入ります。この状態で[MENU/ <<] ボタンを押すと、点滅している桁の値が1つずつ増加します。[>>]ボタンを押すと桁を移動できます。MEMボタンを押せば修正が保存され、[VIEW]ボタンを押すとキャンセルされます。
11. [VIEW]ボタンを押すと初期画面(初期画面)に戻ります。これで大まかな設定は終了です。

取り付け

ディスプレイ

ディスプレイをカートのステアリングホイールに取り付けます。ステアリングホイールのアーム部分に開いている穴に、ディスプレイ裏面のボルトナットを利用して取り付けます。ナットを締めすぎないように注意してください。締めすぎるとディスプレイケースが破



損する場合があります。また、ディスプレイへのダメージを避けるために、付属しているプラスチックワッシャーをMYCHRON3 とステアリングの間に挟むようにして取り付けてください。また、ステアリングを切った際に、本体との接続ケーブルが引っ張られないように、ケーブルには十分に余裕を持たせて取り回してください。

本体(ジャンクションボックス)

本体はフロントゼッケンパネルやフロアパネルなどに取り付けます。ベルクロやタイラップを使用すると、電池交換などの際に簡単に取り外せるため便利です。走行中に外れないようにしっかりと取り付けてください。





なお、Plus以外のモデルでは、内蔵されている横Gセンサを確実に作動させるため、本体はフロントパネルに取り付けることを推奨します。また、コネクタ部が車両の前後方向と一致する向きに取り付けてください。コネクタ部が車両の側面を向くと、車両の前後Gを計測してしまいます。

ラップセンサ

1. 赤外線式の場合

赤外線受信器(ラップセンサ)をラップマーカーを設置したコースサイドに向けます。また、赤外線は不透明な材質に遮断されてしまうため、ラップマーカーまで見通せる状態にしておかなければなりません。受信器の端にある小さなレンズで信号を受けます。受信器はバルクロや両面テープなどで固定します。



2. 磁気式の場合

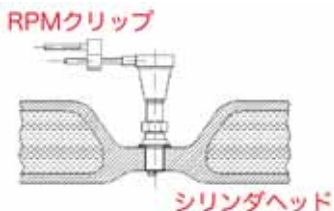
センサに記載されている矢印方向を、車体の前後方向と合わせて、なるべく低い位置に取り付けます。通常はフロアパネルに両面テープで貼り付ければ良いでしょう。

センサに記載されている矢印方向と車体の前後方向を合わせれば、上下左右の向きは取り付けやすい方向でかまいませんが、一番感度が高くなるのはラベル面を上方にした場合です。高い位置に取り付けなければならない場合などには、できるだけラベル面を上側にして取り付けてください。



回転数センサ

回転数センサのコードは、フレームに沿わせてエンジンの背後に取り回します。コードの損傷を防ぐため、ビニールテープかタイラップを使ってフレームに何か所かで固定します。タイラップを使用する場合には、強く締めすぎてコードを切らないように注意して下さい。



回転数センサは、他のセンサケーブルからなるべく離して取り回してください。他のセンサケーブルと束ねたりすると、ノイズによる誤作動の原因となりかねません。コードの終端にあるクリップを、スパークプラグコード(コイル側はノイズが大きい場合があるので、プラグキャップ側がベターです)に直接取り付けます。

速度センサ

1. カート用の場合

ホイールの内側のオイルや埃をきれいに掃除した後、マグネットについている両面テープ保護紙をはがし、ホイールのなるべく端に取り付け、確実に接着できるように強く押しつけます。次に、速度センサをナックルに取り付けます。コードと同じ面にある小さな突起がセンシングユニットです。このセンシングユニットは、マグネットの直上2~5mmの位置に固定する必要があります。向きを間違えたり、センシングユニットとマグネットの距離が離れてしまうと、計測できませんので注意してください。センサのコードを取り回すときには、ステアリングの切れ角を考慮して、若干のたるみを持たせることを忘れないようにして下さい。



2. バイク用の場合

ハブなどを加工してマグネットを取付けます。このマグネットから20mm以内程度で正対するように、センサ本体を取り付けます。センサ本体とマグネットの位置関係がずれないように、しっかりしたステーを作成して固定してください。



温度センサ

MYCHRON3に温度センサを取り付ける場合は、選択したセンサに合わせて、下記の要領で取り付けてください。

- ・ 液温：エンジンの水温センサ取り付け部などに取り付けます。センサはM5サイズか、M10サイズです。
- ・ 排気温度：ヘッダーパイプに付属するM5のナットを溶接して取り付けます。プローブがヘッダーパイプ直径の25から50%の位置に来るようにしてください。
- ・ シリンダヘッド：スパークプラグのワッシャーを抜いて取り付けます。スパークプラグの取り付け・取り外しの際には、センサの破損を防ぐために、手で抑えて動かないようにしてください。



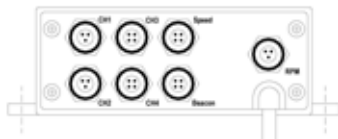
温度センサはエンジンに近い場所に取り付けるため、激しい振動にさらされます。このため、センサやケーブルは必ずきちんと固定してください。特にシリ



ンダヘッド温度計は、ヘッドのフィンなどに沿わせるように、センサ自体を曲げた上で固定することをお勧めします。ケーブルが固定されていない場合も、センサの根元で断線しやすくなりますので、注意してください。

各センサと MYCHRON3 を接続する

すべてのセンサを正しく取り付けたら、MYCHRON 3 本体と接続します。エンジン回転数センサを RPM に、速度センサを SPEED に、ラップセンサを BEACON に、それぞれ取り付けます。温度センサは TEMP1 か TEMP2



(eXtreme の場合は CH1 か CH2) に取り付けます。Plus/Gold の場合、エンジン回転数センサは側面にある 2 つの穴に通します。

ラップマーカー(赤外線式ラップセンサの場合)

ラップマーカー(赤外線発信器)を、コースサイドのなるべく走行ラインが近い場所に置きます。また、ラップマーカーは受信器と同じくらいの高さに置く必要があります。



ラップマーカーは、右上の円形に配置された LED から赤外線を発信します。裏面に電源スイッチと外部電源の入力コネクタがあります。

使用するためには、裏面から 4 本のビスをゆるめてカバーを外し、単 3 型乾電池を 8 本か、006P 型 9V 電池を 1 本取り付けます。通常、新品の単 3 型アルカリ電池を装着してから 20 時間使用できます。Power ランプが点滅したら電池を交換してください。

外部電源を使用する場合には、乾電池は必要ありません。外部電源は DC12V のものをお使いください。付属する外部電源ケーブルにはシールドバッテリー用のコネクタが取り付けられていますので、赤いコネクタを+(プラス)端子に、黒いコネクタを-(マイナス)端子に取り付けてください。なお、外部電源用ケーブルをラップマーカーの外部電源入力コネクタに取り付けると、内部の乾電池はバイパスされて使用されません。内部電源を使用する場合にはケーブルを取り外してください。

使用方法のアウトライン

データを記録する

MYCHRON3 Plus/Gold/eXtreme は、電源を入れるだけで走行する準備ができます。

走行を開始すると、上部のバークラフにエンジン回転数が表示されます。また、左側に

温度センサの値が表示されます。

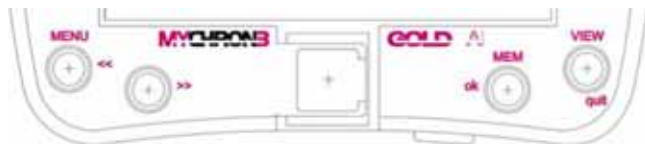
コースサイドにおいたラップマーカの前を通過する(赤外線式の場合)か、埋設された磁石の上を通過する(磁気式の場合)と、バークラフ下に周回数、右下にラッ

プタイム(もしくはベストスプリットタイムと現在のスプリットタイムとの差)が表示されます。

なお、MYCHRON3 Plus/Gold/eXtreme は速度が 10km/h 以上もしくはエンジン回転数が 1000rpm 以上になっていないと、データを記録しません(タイム自体は表示されます)。

データを呼び出す

走行が終了したら[MEN]ボタンを押します。これでデータ呼び出しモードに入り、ディスプレイには、最後のセッションのベストタイムを記録した周回のデータ(ラップタイム・最高温度・最高回転数)が表示されます。



矢印キーで記録されているタイムすべてを閲覧することができます。後に進めるには[>>]キーを、前に戻すには[<<]キーを押します。各ラップの区間タイムは、ラップタイムの後に順次表示されます。

ラップタイムが表示されている状態でMEMボタンを押すと、その周回の最低温度・最低回転数が表示されます。

さらに、[MEM]ボタンをもう1回押すとリアルタイムリプレイモードになり、そのラップの走行状態を再現できます。細かく見たい場合は、[<<]と[>>]キーで0.1秒ごとに前後に動かすこともできます。

データの消去

データを消去するには、CLEAR TEST DATA コマンドを使います。初期画面で[MEN]ボタンを2回押して、CLEAR TEST DATA と表示させてから、[MEM]ボタンを2回押します。

MYCHRON3-Plus/Gold/eXtreme-各部位の詳細

MYCHRON3 Plus/Gold/eXtreme の各部位の詳細と、取り付ける際の注意点は以下の通りです。

ディスプレイ

大きな表示領域を持つディスプレイには、エンジン回転数(rpm)が最上部にバーグラフ式で、左側上下に2カ所の温度がデジタルで、それぞれ表示されます。また、ラップマーカーの信号を受信すると、右下にデジタル



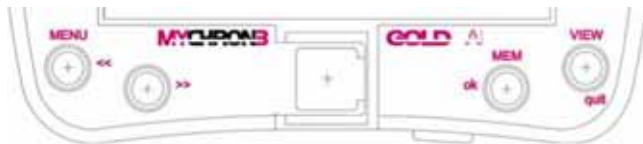
でラップタイムもしくはスプリットタイムが大きく表示されます。また、右上のデジタル表示は、エンジン回転数(rpm)・速度・ベストタイム・電源電圧を[VIEW]ボタンによって切り替えることができます。また、ディスプレイにはバックライトがあるので(Plusは購入時オプション)、夜間でも使用することができます。

その他にも、小さなアイコンによって、温度の単位(セ氏[°C]か華氏[°F])、バックライトの使用、バッテリーアラームが表示されます。

ほとんどのステアリングホイールは、穴のあいた3本のアームがあるので、MYCHRON3 Plus/Gold/eXtreme のディスプレイをここに取り付けます。アームに穴があいていない場合には、位置決めをきちんと行って8から10mmの穴を加工してください。

ボタン

MYCHRON3 Plus/Gold/eXtreme の本体下部には電源の制御やシステムの設定、さらに記録されたデータを呼び出したり消去するための4つのボタンがあります。これらのボタンの主な用途は以下の通りです。



- ・ [MENU/ <<] : メニューを表示・前に戻る・バックライトオンオフ(走行中のみ)
- ・ [>>] : 次に進む

- ・ [MEM] : 設定メニュー内では確定・データの呼び出し
- ・ [VIEW] : 電源を入れる・設定メニューを終了する・表示項目を切り替える
(エンジン回転数のデジタル表示・速度・ベストタイム・バッテリー電圧)

MYCHRON3 Plus/Gold/eXtreme の電源は、[MEM]と[VIEW]を同時に押すことで切ることができます。また、電源を入れる際に[MENU/<<]と[>>]ボタンを押している、デモンストレーションモードになります。中央部のゴムカバー内部には、USBポートがあります。

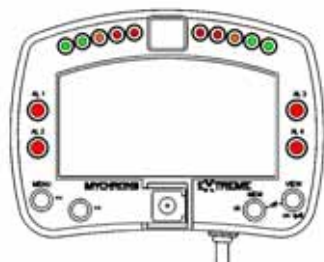


MYCHRON3-Plus/Gold/eXtreme-は非作動状態が10分間続くと自動的に電源が切断されます。

警告ランプおよびギアポジション

MYCHRON 3 Plus/Gold/eXtreme には温度警告ランプ、回転警告ランプ、ギアポジションインジケータが装備されています。

- ・ 温度警告ランプはメインディスプレイの左右に配置されています。
- ・ 回転警告ランプはメインディスプレイの上部に配置されています。左右対称に2つで1組となり、任意の回転数で点灯させることができます。これらのLEDは、外側から内側にむかって順に、緑・緑・オレンジ・赤・赤色です。
- ・ ギアポジションインジケータは中央上部にあり、現在のギアポジションを表示させることができます。このインジケータには0から9までの数字を表示させることができます。



本体(ジャンクションボックス)

本体(ジャンクションボックス)には2つの機能があります。単4型アルカリ乾電池6本を取り付ける電源としての機能と、センサからの信号を入力するための機能です。本体とディスプレイユニットはケーブルで接続されています。



本体はフロントゼッケンパネルなどに取り付けます。ベルクロやタイラップなどで取り付けると、電池交換などを楽に行えます。もちろん、取付の際には動かないようにし

かりと固定してください。

また、Gold/eXtremeの場合、本体にはこの他に横Gを検出するという重要な機能があります。この場合、振動などを避けて横Gセンサを確実に動作させるため、必ずフロントゼッケンパネルに取り付けてください。取付方向は、ドライバーとコネクタがある前面部が正対するようにしてください。コネクタが側面を向くように取り付けると、前後Gを計測してしまいます。

エンジン回転数センサ

エンジン回転数センサの先端にあるクリップをプラグコード(ハイテンションコード)に取り付けます。単気筒エンジンであれば、2サイクルでも4サイクルでも使用できます。配線を行う際には、他のセンサのケーブルと束ねないようにしてください。可能であれば、別系統になるようにケーブルをとり回してください。また、ケーブルの破損をさけるため、シャーシに沿わせて設置してください。

速度センサ

速度センサは、カート用とバイク用の2種類から選択できます。

-カート用速度センサ(フロントタイヤ用)

カート用速度センサは、2つの部品から構成されています。センサ本体と、ホイールに取り付けるマグネットです。速度センサはナックルに取り付けます。コードと同じ面にある小さな突起がセンシングユニットです。このセンシングユニットは、マグネットの直上2～5mmの位置に固定する必要があります。センサのコードを取り回すときには、ステアリングの切れ角を考慮して、若干のたるみを持たせることを忘れないようにして下さい。



-バイク用速度センサ(カートリアシャフト用)

このセンサは、元はバイク用に設計されたものですが、カートのリアシャフトで速度を計測する際に流用することもできます。ギアポジションを計算で表示させる場合には、リアシャフトで速度を計測する必要があります。そのため、こちらのセンサが便利です。リアシャフトで計測する



場合、マグネットが内蔵された専用のカラーもオプションで用意されています。

バイク用速度センサも、センサ本体とマグネットから構成されています。マグネットとセンサは20mm以内程度で正対するように取り付けます。センサ本体とマグネットの位置関係がずれないように、しっかりしたステーを作成して固定してください。

温度センサ

MYCHRON3 Plus/Gold/eXtreme には温度センサを二つ(eXtremeは変換ケーブルを用いることでさらに二つ)取り付けることができます。温度センサは4種類あり、温度センサ付属セットで購入時に選択したもののほかに、オプションで購入することもできます。

1. H2O - 液温センサ(M10 タイプ)
2. H2O - 液温センサ(M5 タイプ)
3. EGT - 排気温度センサ
4. CHT - シリンダヘッド温度センサ

M5 液温センサ



これらのセンサはK型熱電対(黄色のケーブル)もしくは白金測温抵抗体Pt100(黒のケーブル)です。

- 液温センサの取り付け

使用するエンジンのシリンダヘッドに M10 の取り付け部がある場合、M10液温センサを直接取り付けることができます。また、液温センサを取り付けるための、接続アダプタ(オプション)もあります。



- 排気温度センサの取り付け

排気温度センサは、排気ポートから約 150mm 離れた、ヘッドパイプに取り付ける必要があります。排気温度センサの正しい取り付け方法は次の通りです。

温度センサのプロブは、ヘッドパイプ直径の 25% から 50% まで差し込んで取り付けることを推奨します。取り付け手順は以下の通りです。

1. ヘッドパイプに 5mm の穴を開けます。
2. 開けた穴と中心を合わせて、ナットを溶接します。



3. 排気温度センサを取り付けます。

- シリンダヘッド温度センサの取り付け

シリンダヘッド温度センサを取り付ける際には、スパークプラグのワッシャーを抜いてください。破損を防ぐため、スパークプラグの取り付け・取り外しの際に、シリンダヘッド温度センサをなるべく動かさないでください。



取り付ける際には、振動による破損を防止するため、センサのアーム部分をヘッドのフィンなどに固定してください。アーム部分は、必要に応じて曲げ加工を行ってください。

その他のアナログセンサ(eXtremeのみ)

MYCHRON 3 eXtreme には温度センサを含めた様々なセンサを取り付けられる汎用アナログ入力チャンネルを2つ(CH3とCH4)用意しています。このチャンネルは基準電圧出力が必要となるため、コネクタのピン数が異なります。温度センサを取り付ける場合には、変換ケーブルが必要になります。

各センサの取付方法については、データシートなどを参照してください。また、変位センサなどを利用する場合には、PCを接続してキャリブレーションする必要があります。詳細については、Race Studio 2のマニュアルを参照してください。

ラップセンサ

ラップタイムを計測するために、ラップセンサが必要となります。ラップセンサには赤外線タイプと磁気タイプがあり、MYCHRON3 Plus/Gold/eXtreme ではどちらのタイプも使用することができます。赤外線タイプを使用する場合には、コースサイドにラップマーカー(赤外線発信器)を設置する必要があります。また、磁気タイプを使用するためには、サーキットに磁石が埋設されている必要があります。

- ・ 赤外線式ラップセンサ : コースサイドに設置されているラップマーカーの方向に合わせてカートに設置します。灰色の点の部分を受信用のレンズです。
- ・ 磁気式ラップセンサ : カートのフロアパネルに設置します。センサに記載されている矢印をカートの前後方向に合わせます。





MYCHRON3-Plus/Gold/eXtremeはラップセンサの形式(赤外線式か磁気式か)を自動的に判別するため、設定し直す必要はありません。

ラップマーカー

ラップマーカーの設置場所が走行ラインから20m以上離れてしまう場合には、ハイパワーモードにしてお使いください。ハイパワーモードにするためには、電池交換と同様にカバーを外し、基盤下部にあるジャンパーピンを接続します。ショートピンを一度取り外し、2本のピンを接続させます。ハイパワーモードの場合、電源ランプ下の20mランプが点灯します。ハイパワーモードで使用する場合には、外部12V電源を使用してください。カートコースなどで使用する場合、ハイパワーモードにする必要はないでしょう。



 **メモ** Aimのラップマーカーには周波数(チャンネル)切り替え機能はありません。使用する台数に関わらず、コースに必要なラップマーカーは一つだけです。

 **メモ** ラップマーカーの信号ビームは約17度(3:1)で拡がります。言い換えれば、3m離れた地点での信号ビームの大きさは約1mになります。他社製のものも含め、赤外線方式のラップマーカーがそばにおいてあると、光波が干渉してしまい、信号を拾えなくなることがあります。このような場合、ビーム拡がり角度を参考に、他のラップマーカーから適当な距離を離して設置してください。通常の使用条件であれば、5m程度離して設置すれば良いでしょう。

MYCHRON3-Plus/Gold/eXtremeのメモリについて

MYCHRON3 Plus/Gold/eXtremeには、ラップタイム用とログデータ用に、2種類のメモリが内蔵されています。

ラップタイムメモリ

ラップタイム、および各ラップ毎のチャンネル最高値・最低値だけを記録するためのメモリです。最大で250ラップまで記録可能ですが、区間タイムを計測している場合、その分最大値は小さくなります。

ログデータメモリ

パーソナルコンピュータにダウンロードした際に、グラフとして表示させることが可能な、各チャンネル毎のロギングデータを記録するためのメモリです。後述する「オートリプレイ/マニュアルリプレイ」は、このログデータメモリを利用しています。

メモリの容量は、Plusが512キロバイト、Gold/eXtremeが2メガバイトです。パーソナ



ルコンピュータで設定(サンプリングレート)を変更することにより、記録可能な時間は増減します。工場出荷状態では、Plus が約 70 分間、Gold/eXtreme は約 150 分間となります。

メモリ管理

MYCHRON3 は、ログデータメモリを使い切るとディスプレイに **MEMORY FULL** と表示させ、データを保護するために、記録(ロギング)を停止します。この後も、ラップタイムメモリを使い切るまで、ラップタイムの表示・記録は可能ですが、このデータはコンピュータにダウンロードできません。ダウンロードできるのは、ログデータメモリに記録されている内容だけです。例えば、MYCHRON3 Plus を工場出荷状態で使用している場合、ダウンロードできるのは最初の約 70 分間のデータのみです。



データを整理しやすくするためにも、こまめにダウンロード(テストデータクリア)を行うことをお勧めします。

MYCHRON3-Plus / Gold / eXtreme の設定方法

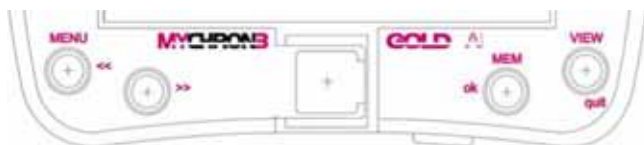
クイックスタートで説明した項目の他にも、MYCHRON3 には様々な設定項目があります。これらの項目の詳細は以下の通りです。

設定メニューの詳細

電源を入れた後、[MENU/<<] ボタンを押すと、各種パラメータの操作を行う設定モードに入ります。[MENU/<<] ボタンで次の設定項目に移り、[>>] ボタンで前の設定項目に戻れます。

設定モードを終了し初期画面に戻る場合には、[VIEW] ボタンを押します。

次から説明する設定モードの項目は、[MENU/<<] ボタンを押したときに現れる順番通りです。



-Night Vision (バックライト - 購入時オプション)

MYCHRON3 Gold/eXtreme のディスプレイには、バックライトが装備されています(Plus は購入時オプション)。この設定項目を表示している状態で、[MEM/OK] ボタンを押すと

バックライトのオンオフを切り換えられます。初期画面に戻るには[VIEW]ボタンを押します。

バックライトがオンになると、ディスプレイの右上に電球のマークが表示されます。



走行中であれば、[MENU/<<]ボタンを押すだけでバックライトのオンオフを切り換えられます。

-Clear test data(テストデータクリア)

メモリに記録されているデータを消去します。

CLEAR TEST DATA と表示されている状態で、[MEM]ボタンを2回押すとデータが消去されます。[VIEW]ボタンで終了できます。

-Beacon obscuring time (マーカー信号無視時間)

ラップマーカーからの信号を無視する時間を設定します。このパラメータを設定することで、赤外線式ラップセンサを使用していて、コースサイドに複数のラップマーカーが設置されてしまった場合でも、正しくラップタイムの計測を行えます。

また、複数の磁石が埋設されているコースで、区間タイムを計測したくない場合にも使用します。たとえば、ラップタイムが60秒のコースでは50と設定します(この場合、次項のSplit's numberはゼロにする必要があります)。マーカー信号無視時間は3秒から59秒まで設定できます。



ここで設定した時間は、区間タイム用マーカーを含めて、すべてのラップ入力信号を無視します。設定を間違えるとラップタイムがきちんと計測できなくなりますので注意してください。



区間タイムを計測しない場合を除き、磁気式ラップセンサで使用する場合には、3秒から8秒程度の短い時間に設定しておいてください。

OBSCURING TIMEが表示されている状態で、[MEM]ボタンを押すと、編集モードに入ります。

[MENU/<<]ボタンで点滅している桁の数字が一つずつ増加し、[>>]ボタンで修正する桁を移動させられます。

[MEM]ボタンを押せば修正が保存されます。[VIEW]ボタンを押すと修正は破棄され、元の数字に変更は加えられません。

-Split's number (スプリットタイム測定用マーカーの数)

スプリットタイムを測定するためのマーカーがサーキットにいくつあるかを設定します。



複数のマーカーを設置するか、複数の磁石が埋設されている場合、この設定を正しく行うことで、最初のマーカーからのスプリットタイムが計測できます。なお、マーカーが複数ある場合でも、前述の Beacon obscuring time(マーカー信号無視時間)を使用することで、区間タイムを計測しないように設定できます。



ここに入力するのは、コースに埋設されている磁石(設置されているマーカー)の合計数から、1をひいた数値です。従って、コースに1本しか磁石が埋設されていない場合には、ゼロを入力します。

NUMBER OF SPLITSが表示されている状態で、[MEM]ボタンを押すと編集モードに入ります。

[MENU/<<]ボタンを押すと数字が増加します。

[MEM]ボタンを押せば修正が保存されます。[VIEW]ボタンを押すと修正は破棄され、元の数字に変更は加えられません。

-Total running (累積走行時間および距離)

走行時間および走行距離(キロメートルもしくはマイル)の累積値を表示させることができます。いわゆるトリップメーターで、必要に応じてリセットすることもできます。

TOTAL RUNNINGが表示されている状態で、[MEM]ボタンを押すと、上部にPRESS OK TO CLEARと表示されるので、さらに[MEM]ボタンを押せばTOTAL ARE CLEAREDと表示され、数値がゼロにリセットされます。リセットせずに終了する場合は、[VIEW]ボタンを押します。

-Odometer (オドメーター)

MYCHRON3が取り付けられてからの、累積走行距離を表示します。この値はリセットすることができません。

-Gear calibration(ギアセンサキャリブレーション)

MYCHRON3 Plus/Gold/eXtremeには、エンジン回転数と駆動輪速度から計算させることで、ギアポジションを検知する機能があります。もちろん、必要がない場合にはギアポジションインジケータをオフにすることもできます。

GEAR CALIBRATIONが表示されている状態で[MEM]ボタンを押すと、このモードを切り替える事ができます。これらはそれぞれ、下記のように表示されます。

- GEAR COMPUTED - (ギアポジションを計算させる)
ギアポジションを算出表示させます。設定手順については後述します。
- GEAR IS DISABLED - (ギアポジションを表示させない)

ギアポジションを表示させたくない場合、このオプションを選択します。

ギアを計算表示させる場合には、下記手順に従って設定・ティーチング作業を行ってください。

GEAR COMPUTED と表示されている状態で[MEM]ボタンを押すと、このオプションが選択され、HIGHER GEAR と表示されます。[MENU]ボタンを押してトップギアの数字にします。[MEM]ボタンを押せば修正が保存されます。[VIEW]ボタンを押すと修正は破棄され、元の数字に変更は加えられません。

設定が終了すると、ディスプレイには RUNNING GEAR CAL と表示されます。それぞれのギアのしきい値を覚えさせるため、コースを最低2ラップ以上周回し、ティーチングを行います。なお、ティーチングするにはすべてのギアを使用し、可能であれば各ギアを10秒間程度保持してください。すべてのギアを使用しなかった場合、きちんとした数字を表示させることができなくなります。

ティーチングラップの最中は、ギアナンバーは表示されません。

ティーチングラップが終了したら、ピットに戻って車両を停止させてください。この際、MYCHRON3の電源を切る前に、必ず車両を完全に停止させてください(速度入力をゼロにしてください)。エンジンの停止と MYCHRON3 の電源切断は同時でもかまいません。

- ・ ケース1：MYCHRON3の電源を切らずにエンジンを停止した場合、AL1 ランプが点滅します。ランプが点滅している間は、しきい値を計算中です。
- ・ ケース2：MYCHRON3の電源がエンジン停止と同時に切断された場合、次に電源を入れたときにAL1 ランプが点滅して、しきい値の計算を行います。

AL1 ランプが点滅から消灯が変わると、ティーチングはすべて終了です。次回走行時にはギアナンバーが表示されます。もしも実際のギアと表示される値が異なる場合には、再度ティーチングをやり直してください。

なお、計算用のしきい値は MYCHRON3 内部のメモリに保存されるため、一度ティーチングしてしまえば、次回の使用時でもそのままギアナンバーが表示されます。ただし、ギア比を変更したり、タイヤ外周長が変わった場合には、再度ティーチングする必要があります。



計算のアルゴリズムは速度を駆動輪で取得することを前提としたものになっています。従って、速度を駆動輪以外で取得している場合には、正しいギアナン



バーを表示させることはできません。

-Maximum temperature alarm 1(最高温度警告 1)

MYCHRON3 Plus/Gold/eXtreme は、ここで設定した値よりも Temp1 チャンネルの温度が高くなると、温度警告ランプ AL1 を点灯させます。温度がこの値よりも下がれば、消灯します。温度警告は 0 から 1999 までの数字を入力することができます。

MAX TEMP ALARM1が表示されている状態で、[MEM]ボタンを押すと、編集モードに入ります。

[MENU/<<]ボタンで点滅している桁の数字が一つずつ増加し、[>>]ボタンで修正する桁を移動させられます。

[MEM]ボタンを押せば修正が保存されます。[VIEW]ボタンを押すと修正は破棄され、元の数字に変更は加えられません。

設定値をゼロにすると、この機能は作動しません。

-Minimum temperature alarm 1(最低温度警告 1)

MYCHRON3 Plus/Gold/eXtreme は、ここで設定した値よりも Temp1 チャンネルの温度が低くなると、温度警告ランプ AL2 を点灯させます。温度がこの値よりも上がれば、消灯します。温度警告は 0 から 1999 までの数字を入力することができます。

MIN TEMP ALARM1が表示されている状態で、[MEM]ボタンを押すと、編集モードに入ります。

[MENU/<<]ボタンで点滅している桁の数字が一つずつ増加し、[>>]ボタンで修正する桁を移動させられます。

[MEM]ボタンを押せば修正が保存されます。[VIEW]ボタンを押すと修正は破棄され、元の数字に変更は加えられません。

設定値をゼロにすると、この機能は作動しません。

-Maximum temperature alarm 2(最高温度警告 2)

MYCHRON3 Plus/Gold/eXtreme は、ここで設定した値よりも Temp2 チャンネルの温度が高くなると、温度警告ランプ AL3 を点灯させます。温度がこの値よりも下がれば、消灯します。温度警告は 0 から 1999 までの数字を入力することができます。

MAX TEMP ALARM2が表示されている状態で、[MEM]ボタンを押すと、編集モードに入ります。

[MENU/<<]ボタンで点滅している桁の数字が一つずつ増加し、[>>]ボタンで修正する桁を移動させられます。

[MEM]ボタンを押せば修正が保存されます。[VIEW]ボタンを押すと修正は破棄され、元の

数字に変更は加えられません。

設定値をゼロにすると、この機能は作動しません。

-Minimum temperature alarm 2(最低温度警告 2)

MYCHRON3 Plus/Gold/eXtreme は、ここで設定した値よりも Temp2 チャンネルの温度が低くなると、温度警告ランプ AL4 を点灯させます。温度がこの値よりも上がれば、消灯します。温度警告は 0 から 1999 までの数字を入力することができます。

MIN TEMP ALARMが表示されている状態で、**[MEM]**ボタンを押すと、編集モードに入ります。**[MENU/<<]**ボタンで点滅している桁の数字が一つずつ増加し、**[>>]**ボタンで修正する桁を移動させられます。

[MEM]ボタンを押せば修正が保存されます。**[VIEW]**ボタンを押すと修正は破棄され、元の数字に変更は加えられません。

設定値をゼロにすると、この機能は作動しません。

-Changing gear lights configuration(回転警告ランプ設定)

ディスプレイ上部にある回転警告ランプの設定を行います。エンジンの回転数が設定した値に到達すると、ランプが点灯します。

SHIFT LIGHTが表示されている状態で、**[MEM]**ボタンを押すと両端のランプが緑色に点灯し、ディスプレイの上段には**INSERT RPM VALUE**と表示され、下段にはランプを点灯させる回転数が表示されます。

さらに**[MEM]**ボタンを押すと、編集モードに入ります。**[MENU/<<]**ボタンで点滅している桁の数字が一つずつ増加し、**[>>]**ボタンで修正する桁を移動させられます。**[MEM]**ボタンを押せば修正が保存され、次のランプの設定に移ります。**[VIEW]**ボタンを押すと修正は破棄され、元の数字に変更は加えられません。

設定できる値は 0 から 29999 までで、0 に設定するとこの機能は無効になります。

-Wheel circumference(タイヤ外周長)

タイヤの外周長を設定します。ここで設定された値を基に、タイヤの回転速度から車両の速度を算出します。なお、後述の速度計測単位によって、ここで表示される単位も変化します。速度が km/h の場合は mm 単位に、MPH の場合はインチ単位になります。

WHEEL CIRCUMFERENCEが表示されている状態で、**[MEM]**ボタンを押すと、編集モードに入ります。**[MENU/<<]**ボタンで点滅している桁の数字が一つずつ増加し、**[>>]**ボタンで修正す



る桁を移動させられます。0 から 9999 までの値を設定できます。

[MEM] ボタンを押せば修正が保存されます。[VIEW] ボタンを押すと修正は破棄され、元の数字に変更は加えられません。

-Speed sensor's number(速度センサマグネット数)

取り付けられている速度センサ用マグネットの数を設定します。速度センサは、マグネットが通過するたびに電気パルスを発生させます。このパルス数から回転速度を算出するため、正しく設定する必要があります。

PULSES ON WHEELが表示されている状態で、[MEM] ボタンを押すと、編集モードに入ります。[MENU/<<] ボタンで点滅している桁の数字が一つずつ増加し、[>>] ボタンで修正する桁を移動させられます。0 から 255 までの値を設定できます。

-Max RPM value (最大回転数)

バーグラフ式タコメータの最大値を設定します。なお、ここで設定した数値よりも大きい入力があった場合には、ノイズと見なして、記録しません。

MYCHRON3 Plus/Gold/eXtreme は最大回転数の設定を 7 種類用意しています。

8,000rpm、10,000rpm、12,000rpm、16,000rpm、20,000rpm、22,000rpm、25,000rpm

MAX RPM VALUEが表示されている状態で、[MEM] ボタンを押すと編集モードに入ります。

[MENU/<<] ボタンを押すと数字が増加します。

[MEM] ボタンを押せば修正が保存されます。[VIEW] ボタンを押すと修正は破棄され、元の数字に変更は加えられません。

-Spark for Revs (一回転あたりの点火パルス数)

エンジンが一回転することに発する点火パルスの数を設定します。

SPARK FOR REVSが表示されている状態で、[MEM] ボタンを押すと編集モードに入ります。

[MENU/<<] と [>>] ボタンを押すことで、設定値を変更できます。設定値は x1、x2、/2、/3、/4、/6 の中から選択できます。単気筒 2 サイクルエンジンの場合は、x1 を選択します。

[MEM] ボタンを押せば修正が保存されます。[VIEW] ボタンを押すと修正は破棄され、元の値に変更は加えられません。

-Temperature measure unit (温度表示単位)

温度計の表示単位をセ氏(°C)と華氏(°F)から選択することができます。

FAHRENHEIT/CELSIUSが表示されている状態で、[MEM] ボタンを押すと編集モードに入ります。

[MENU/<<]と[>>]ボタンを押すことで、設定値を変更できます。選択にあわせて、温度表示部の左側に℃と°Fのマークが示されます。

[MEM]ボタンを押せば修正が保存されます。[VIEW]ボタンを押すと修正は破棄され、元の値に変更は加えられません。

-Speed measure unit (速度計測単位)

速度の計測単位を km/h と MPH から選択することができます。

SPEED UNITが表示されている状態で、[MEM]ボタンを押すと編集モードに入ります。[MENU/<<]と[>>]ボタンを押すことで、設定値を変更できます。選択にあわせて、温度表示部の左側に℃と°Fのマークが示されます。

[MEM]ボタンを押せば修正が保存されます。[VIEW]ボタンを押すと修正は破棄され、元の値に変更は加えられません。

-Message language (表示言語)

MYCHRON3 Plus/Gold/eXtreme はディスプレイに表示させる言語を選択できます。

MESSAGE LANGUAGEが表示されている状態で、[MEM]ボタンを押すと編集モードに入ります。

[MENU/<<]と[>>]ボタンを押すことで、設定値を変更できます。

[MEM]ボタンを押せば修正が保存されます。[VIEW]ボタンを押すと修正は破棄され、元の値に変更は加えられません。

-Firmware Information (ファームウェアバージョン)

電源投入時と同様、ファームウェアのバージョンを確認できます。左上に数字が表示されます。

使用方法の詳細

MYCHRON3 Plus/Gold/eXtreme の電源を入れるといくつかの情報が表示されます。詳細は以下の通りで、この順番に表示されます。

- Aim 1_XY ファームウェアバージョン
- MYCHRON3 機器の名称
- MEMORY TOTAL FREE / TEST X LAP Y メモリの状態を表示: 最初のメッセージが表示されている場合、MYCHRON3のメモリには何もデータが記録されていないことを表します。後のメッセージは、最後の周回数がYで最後のテストセッションがXであることを表します。



MYCHRON3 Plus/Gold/eXtreme は接続しているセンサの計測値を、内蔵のログデータメモリに記録することができます。このデータは、パーソナルコンピュータにダウンロードして、後から解析することができます。

MYCHRON3は取得したデータをセッションごとに「テスト(Test)」として分割し、すべての周回を記録します。テストを新たにするには、[MEM]と[VIEW]ボタンを同時に押して一度電源を落としてから、[VIEW]ボタンで再度入れ直します。

走行中の表示

MYCHRON3 Plus/Gold/eXtreme には、走行を開始すると "Test 01" (もしくはメモリがクリアされていない場合は現在のテスト番号)が表示されます。そして、車両がマーカーを通過すると、"Lap 001" と表示されます。

前章に記述されている「スプリットタイム計測用マーカーの数」がゼロでない場合には、設定された数まで"Split Number x"と表示され、ベストタイムとの差が同時に表示されます。すべてのスプリットタイム計測用マーカーを通過し、最初のマーカーに戻るとラップタイムが表示されます。

ベストラップタイムが記録されると、"Best Lap Time" と表示されます。

走行が終了すると、ディスプレイには最後の周回の周回数とラップタイムが表示されます。[MEM]ボタンを押すとメモリに記録されているデータにアクセスすることができます。

ベストラップタイムを表示する

ベストラップタイムを表示させるには、初期画面で[MEM]ボタンを押します。最後のセッション(テスト)のベストタイムが表示されます。

同時に、そのラップのテスト番号、周回数、温度とエンジン回転数の最高値が表示されます。ラップタイムが点滅しているのは、そのセッション(テスト)のベストタイムであることを示すためです。走行中と同様に、[VIEW]ボタンで右上の数値表示を、最高エンジン回転数から最高速度に切り替えられます。

この状態で[MEM]ボタンを再度押すと、そのラップの温度とエンジン回転数の最低値が表示されます。走行中と同様に、[VIEW]ボタンで右上の数値表示を、最低エンジン回転数から最低速度に切り替えられます。

初期画面に戻るには、[VIEW]ボタンを押します。

ほかのラップのデータを呼び出す

初期画面で、[MEM]ボタンを押してベストタイムを表示させます。[MENU/<<]ボタンを押すと前のラップが表示され、[>>]ボタンで次のラップが表示されます。スプリットタイムを計測するように設定してあれば、ラップごとのスプリットタイムが表示されます。[MEM]ボタンを押すとそのラップのエンジン回転数と温度の最低値を表示させることができます。

2つ以上のテストが残っている場合でも、[MENU/<<]ボタンで前のテストを呼び出せます。[MENU/<<]と[>>]ボタンは、押し続けるとリピートになり、素早く移動できます。

特定のラップの詳細なデータを呼び出す

特定のラップの詳細なデータを表示させる方法には、オートとマニュアルの2種類あります。

- オートリプレイ

初期画面で、[MEM]ボタンを押してから、[MENU/<<]と[>>]で見たいラップを呼び出します。その後、[MEM]ボタンを2回押します。すると、そのラップの最初から最後まで、エンジン回転数・温度・経過時間が、自動的に再現されます。このデータは、0.1秒ごとの間隔で表示されています。オートリプレイを終了するためには、[MEM]ボタンを押します。また、[VIEW]ボタンを押せば初期画面に戻ります。

- マニュアルリプレイ

オートリプレイの最中に[>>]か[MENU/<<]ボタンを押すと、オートリプレイが停止します。この状態で、[MENU/<<]ボタンを押せば、0.1秒ずつ前のデータを表示させられます。また、[>>]ボタンで0.1秒ずつ後に進ませることができます。[MEM]ボタンを押せば、オートリプレイモードになります。[VIEW]ボタンを押せば、初期画面に戻ります。

記録されているデータを消去する

「MYCHRON3 Plus/Gold/eXtreme の設定方法」のテストデータクリアを参照してください。

パーソナルコンピュータでデータを解析する

「Race Studio 2 - インストール」マニュアルを参考に解析ソフトウェアをコンピュータにインストールし、ダウンロードケーブル(Plus はオプション)をMYCHRON3とコンピュータに接続してデータをダウンロードします。詳細については「Race Studio 2 -



MYCHRON3 シリーズ」マニュアルを参照してください。

メンテナンス

MYCHRON3 Plus/Gold/eXtreme は、特にメンテナンスする必要はありません。

ディスプレイユニットと各部品を丁寧に扱っていただければ、ディスプレイの右上にローバッテリー表示がでたときに電池を交換するだけです。なお、バッテリーカバーのねじを締めすぎないように注意してください。

また、改善されたファームウェアアップデーターが発表されたときには、アップグレードすることをお奨めします。

電池の交換

MYCHRON3 Plus/Gold/eXtreme は単4型アルカリ乾電池を6本使用します。新品に交換してから最大約40時間使用することができます。電池の交換が必要になるとバッテリーインジケータがディスプレイの右上に表示されます。

さらにバッテリー電圧が低くなると、

LOW BATTERY

と表示され、さらに低くなると、自動的に電源が切れます。

バッテリーインジケータが表示されたら、使用中に電源が落ちる可能性があるので、電池を6本とも交換してください。

電池交換は次の手順で行います。本体(ジャンクションボックス)上部の4本のねじをゆるめ、上蓋を取り外します。電池の極性に注意して取り替えます。上蓋を取り付ける際には、ねじを締めすぎないように注意してください。

ファームウェアのアップグレード

ファームウェアアップデータはAim日本語オフィシャルサイトで随時公開します。なお、ファームウェアをアップグレードするためには、USB 接続ケーブル(Plusはオプション)が必要です。

PCとケーブルで接続し、MYCHRON3の電源を入れた後、ダウンロードしたアップデータ(拡張子EXE)をダブルクリックで起動すれば、自動的にファームウェアがアップグレードされます。



クイックリファレンス

各種設定を行う

[VIEW]ボタンで電源が入ります。

[MENU/⟨<⟩]ボタンで設定モードになります。

[MENU/⟨<⟩]と[>>]ボタンで設定項目を選択できます。

■区間タイム用マーカ数を変更する

Number of Splits を表示させます

[MEM]ボタンを押して編集モードに入ります。

[MENU/⟨<⟩]ボタンで数字を変更します。

[MEM]ボタンを押して確定するか、[VIEW]ボタンで終了します。

■マーカー信号無視時間を変更する

Obscuring Time を表示させます。

[MEM]ボタンを押して編集モードに入ります。

[MENU/⟨<⟩]ボタンで数字を変更します。

[>>]ボタンで桁を移動します。

[MEM]ボタンを押して確定するか、[VIEW]ボタンで終了します。

■タイヤ外周長を変更する

Wheel Circumferen を表示させます。

[MEM]ボタンを押して編集モードに入ります。

[MENU/⟨<⟩]と[>>]ボタンで選択します。

[MEM]ボタンを押して確定するか、[VIEW]ボタンで終了します。

■温度警告値を設定する

Temperature Alarm を表示させます。

[MEM]ボタンを押して編集モードに入ります。

[MENU/⟨<⟩]ボタンで数字を変更します。

[>>]ボタンで桁を移動します。

[MEM]ボタンを押して確定するか、[VIEW]ボタンで終了します。

使用する

[VIEW]ボタンで電源が入ります。

■バストラップを表示する

[MEM]ボタンを押します。

[VIEW]ボタンで初期画面に戻ります。

■ほかのラップを表示する

[MEM]ボタンを押します。

[MENU/⟨<⟩]ボタンで前のラップに、[>>]ボタンで後のラップに移動します。

[VIEW]ボタンで初期画面に戻ります。

■ラップの詳細なデータを表示する

- オートリプレイ

[MEM]ボタンを押します。

[MENU/⟨<⟩]と[>>]ボタンで見たいラップを選択します。

[MEM]ボタンを2回押します。

[MEM]ボタンを押すとリプレイを終了します。

[VIEW]ボタンで初期画面に戻ります。

- マニュアルリプレイ

[MEM]ボタンを押します。

[MENU/⟨<⟩]と[>>]ボタンで見たいラップを選択します。

[MEM]ボタンを2回押します。

[MENU/⟨<⟩]か[>>]ボタンでオートリプレイを終了します。

[MENU/⟨<⟩]ボタンで0.1秒前のデータになります。

[>>]ボタンで0.1秒後のデータになります。

[MEM]ボタンでオートリプレイが再開されます。

[VIEW]ボタンで初期画面に戻ります。



サポート

24時間無償サポートをご利用下さい。

© Aim s.r.l. 日本語オフィシャルウェブサイト サポートページ

<http://www.aimsports.jp/support/index.html>

お問い合わせが多いトラブルの解決方法など、FAQを掲載しています。また、最新のソフト・ファームウェアなどを入手できます。

◎故障・修理等のお問い合わせ先は、下記の通りです。

電子メール info@aimsports.jp

FAX 020-4665-6438

ファックス送信料金は、1都3県内(東京都・千葉・神奈川・埼玉県)/40秒毎10円、それ以外の地域/30秒毎10円です。その料金プラス1回送信あたり10円かかります。NTTより他の通話料と一緒にポケットベル料金として請求されます。



Aim s.r.l

Via Cavalcanti 8,

20063 Cernusco sul Naviglio - MI

Italia

<http://www.aim-sportline.com/>

BEAR
RACING SERVICE

RACING GEAR
BEAR RACING SERVICE
<http://www.bear-racing.co.jp/>

有限会社ベア (BEAR inc.)

〒158-0082

東京都世田谷区等々力 7-2-26

<http://www.aimsports.jp/>
